

教務だより

2012年12月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

自分を磨く！

茗溪塾塾長 宇野 雅春

中高生の定期テストも終了し、世の中は2012年の終わりに向けて、加速していく時期になりました。あちこちで華やかなイルミネーションがきらきらして、目を楽しませてくれます。最近は何となく縁がないけれど、ディズニーランドなどはきっと、更に華やかさを増してきているのだろう…と想像してしまいます。世の中には明るくきらきらしたものと、一方で東日本大震災のような大きな不幸もあります。常に引き裂かれているような状態の中で、一人静かに迎える夜は、誰も同じ…自分しかいない世界…そんなときは誰もがそこで現実と向かい合うこととなります。否が応でも自分と向き合う…受験生ともなればいっそうそういう日々を送っているかもしれません。

ずーっとわかっていたつもりで、本当は良くわかっていなかったこと。

それが「自分を磨く！」です。7つの習慣の最後の習慣です。一般的に「教養を積む」くらいにしか考えていなかったというのが本当のところ。先日、中高一貫校中学1年生の「一日勉強会」で第5の習慣「理解してから、理解される」を紹介しました。大人でも「自分が理解されない」と思う人は多く、塾長ともなれば、常に「何でわかってくれないのか？」と思われる立場です。理解してもらおうことにも理解することにも常にプレッシャーが付きまといまいます。そして、お互いの違いを歓迎し、「第三の道」を見つけることで、大きな成果を得る第6の習慣が「相乗効果」です。受験勉強がいろいろな障害を突きつけてくることはたくさんありますが、トラブルが理解へと進み相乗効果を作り「合格」を作ることは珍しいことではありません。

そして第7の習慣「自分を磨く」ということになるのです。

「優先順位」や「WIN・WIN」も入れて良い習慣を身につけていくとして、確かにそれだけで、完成とは思えない…何かが足りない…。そこに「自分を磨く」が登場します。

「丸くなる」とか「人間ができていく」というのは違う「自分を磨く」とはどんなことなのだろうか？ステューブ・コヴィー著「7つの習慣ティーンズ」の中には次のように書いてあります。「身体」「知性」「感情」「精神」を定期的にリニューアルし強化すること。具体的に言うと、第一のルール「**自分の身体の声を聞こう**」では食事の大切さを強調しています。「食が人間を作る」ということです。食べることにほとんど無関心だったり、好きな物を好きな時に好きなだけ食べている若者を見ると、「これで仕事ができるのだろうか？」とってしまいます。不規則だし、そういう人ほど「遅刻」や体調不良が多い印象です。第二のルールは「**節度を守り、極端を慎め**」です。大人を例にすると、仕事は一生懸命で優秀だが極端、自分だけが一番つらいと思っている。まわりから批判されたり、注文をつけられると、すぐ切れる。たばこは吸う。酒に飲まれる。またはささやかな（たとえば、娯楽や賭け事、旅行など）自分の好きなことに没頭するあまり、それが「人生の生きがい」と勘違いし、大切なことは何一つ進展しなくても好きなことはやめられない、けれどそれが楽しい人生。人生の目的が趣味になってしまったりします。

わかりやすく、受験生に例えれば、徹夜で勉強した翌日は昼まで寝ているようなタイプのことです。非効率であることや体調不良を引き起こしやすいということにも気がつきません。気分が乗ったときしか勉強しないタイプです。授業でよく居眠りをする生徒がいますが、そういう生徒ほど、とても勉強を頑張っていると思っています。また、他人の言うことに全く耳を貸しません。失敗しやすく、失敗も全てまわりのせいにしてがちです。おそらく一生涯この傾向から抜け出せない可能性もあります。

こう考えると、「自分を磨く」という作業は、とても重要に思えてきます。

6億円宝くじが売り出されて話題になっています。我が家でもしきりと「買ったか？」と聞かれます。宝くじを買うより仕事を頑張った方が現実的だと常々思っているのですが、「働き手」を大切にすること、宝くじを当てる方が、効率がよいと思っています。

「学びは未来を開くカギ」です。宝くじを買うより真に知識を身につけることの方が確率的に「将来を保証する」可能性が大きいということに、気づいていますか？

受験は真の知識が定着する重要ポイントです。学業が自分を成長させ、明日を作ること、を忘れないでほしいと思います。